

第5回道泉地区協議会 結果について（報告）

日 時	平成 29 年 12 月 19 日（火）19:00～ 20:30 於：道泉地域交流センター
出席者	【地域力推進協議会】22 名 【教育部】教育部長、学校教育課長、学校教育課主幹、学校教育課専門員、 学校教育課主事
配布資料	別添のとおり
<p>【議題】※司会進行：道泉地域交流センター長</p> <p>1 あいさつ 涌井教育部長より挨拶がされた。</p> <p>2 協議及び報告事項</p> <p>(1) 構成員について 事務局から、本日は協議会役員、各グループ代表者、小学校中学校代表者、地域代表者併せて 22 名の出席があることが報告された。</p> <p>(2) 小中一貫校の取り組み状況などについて</p> <p>① 地区協議会からの陳情書について 協議会事務局から、11 月 27 日に協議会から市へ渡した陳情書について説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 11 月 5 日に、道泉地区協議会で 10 月 27 日の市の提案された「通学」に関する内容に対する意見交換を行い、その内容をとりまとめて、市長と教育長へ陳情書を提出した。 ○ この陳情については、期限を切って回答を要求する形ではなく、要望に対する市の考え方を示してもらいながら、しっかりと協議を続けいく中で互いが納得できる形で進めていきたい。 <p>② スクールバスの検討経過について 市から、スクールバスの運行及び通学支援についての基本的な考え方が説明された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、陳情書にある要望に対して、しっかりと協議を重ねていきたい。 ○ 本日は、要望の一つ目である「小中学生関係なく、全員をバスの対象とする」という点について、まずは、物理的に全員乗車可能な環境を整えることができるかどうかについて説明する。 ○ 要望に応えるには、前回（10 月 27 日）市から示した素案から約 3 倍の人数になるため、それに対応した車両が用意できるかどうかを 12 月 6 日にバス事業者と協議し、パルティセとから祖母懐橋までの路線バス区間で、道泉地区の児童・生徒の全員がバス利用できる環境を整えることは可能との見通しが立った。 ○ なお、要望の二つ目の「バス通学の無料支援」については、全員がバス利用ということになれば財政的な負担が増えていくため、前回の市から示した素案を見直し、「有料・無料の整理」と「通学支援の範囲拡大」の可能性について、今後の協議する中で整理していきたい。 ○ 通学路の安全点検に対する対策案もまとまりつつあることから、次回の協議会に提示することを目標にしている。 	

質疑応答

質問 1 : 前回の案が白紙になったのはなぜか。

⇒回答 1 : 前回の案は、対象地域と小学生という条件を設けて、その条件の下で無料運行が可能であるという案であったが、対象地域と学年区分を設けないでとの陳情書が提出されたことを受けて、その要望に沿う形で見直しを行ったものを説明させていただいた。

協議会 : 市から出された前回案では、対象地域と学年区分があったが、道泉地区は平等としてほしいという内容で陳情を出したため、市からは、改めて内容の見直した内容の説明がされたと受け止めたい。

質問 2 : 物理的に乗車可能ということは、パルティセとから乗車するということか。

⇒回答 2 : 今の乗車可能というところは、パルティセとからの乗車を想定したもの。

質問 3 : 全員が乗車可能な環境が整ったという、「全員」には、小学生だけでなく、中学生も含まれるということか。

⇒回答 3 : 要望に沿った形で、小学生、中学生の区分なくバスに乗車できる環境が用意できる見込み。現時点では、小学生、中学生合わせて 260 名から 270 名が道泉地区から小中一貫校に通学する想定をしている。

質問 4 : 12 月 6 日に名鉄バスと協議してから 10 日も経っているが、バスに全員乗車できる環境が用意できるという回答のみで、バスの運行経路や時刻表は示されないのか。

⇒回答 4 : そのとおりである。

意見 1 : 通学距離の観点だけではなく、通学時間の観点も考慮しながら検討していただきたい。パルティセとのバス停を使うことは良いが、そこに行くまでにも時間がかかるため、子どもの安全を確保するというを最優先にするなら、パルティセとよりも地域に入った所までバス停を設けていただきたい。また、義務教育なので、無料でバスの運行ができるように努力していただきたい。

更に、協議を進める項目やスケジュールを示してほしい。

質問 5 : バス事業者と協議をする上で、どのような前提条件で協議を進めたのか。また、その際には運行回数も考慮したか。

⇒回答 5 : パルティセとから祖母懐橋までの路線バス区間での運行日数約 200 日という条件で、道泉地区の児童・生徒の全員がバス利用できるかどうかを協議の対象とし、シャトル形式での運行も想定しながら協議を行った。

また、具体の運行回数等については、朝の一斉登校時と、下校の小学校低学年、小学校高学年、中学生、部活動に、それぞれ対応することが必要であると考えているが、現時点では確定した情報を説明する段階にない。

質問 6 : 陳情書には書ききれなかったが、パルティセとと祖母懐橋で乗降するという条件は外して、検討を進めていただきたい。

⇒回答 6 : 今後、運行事業者とともに、他の乗降場所も視野に入れながら検討を進めてまいりたい。協議会を含めた地元のみなさまの総意として陳情書を頂いていると認識しているので、まずは要望内容を基に検討を進めさせていただきたい。

なお、他にも要望があれば、その点についても視野に入れながら検討を進めていくが、

全ての要望には答えられないこともあるので、ある程度の条件を決めながら、制度を決めていかなければならないことに、ご理解をいただきたい。

運行事業者からも、できるだけ柔軟に対応できるよう努力するという話をいただいているので、できる限りご要望にお答えできるよう努力したい。

意見 2 : 子どもの通学に関する事を決めているということ、忘れずに進めていただきたい。

協議会 : 子どもの安全な通学を確保するための議論であることは、全員が考えていることである。今回は、バス通学の有料・無料やバスの乗降場所を決める以前に、まずは全員がバスに乗ることができる環境を確保できるかどうかを最優先で運行事業者と協議してもらっている。

市の対応で納得いかない部分もあるが、一つ一つ問題を解決していかなければ進まないため、要望を取り入れていただきながら、計画を進めていただきたいと、陳情書を出す際に強く申し添えた。本日、説明に来ていただいている市の担当の方々が出来る事は限られているかもしれないが、努力はしていただいていると感じている。その点を皆さんも理解して、これから協議会と市で議論を重ねていきたい。

質問 7 : 前回の案では路線バスを活用するという案であったが、今回の案は路線バスではなく、全員を乗せることになるので、専用バスということになるのか。

⇒回答 7 : 基本的には路線バスで路線バスルートを活用することになるが、ほぼ専用バスに近い形になると想定している。

質問 8 : バスの形はスクールバスのタイプか路線バスの形かどちらか。全員座ることができるのか。

⇒回答 8 : 運行車両は、マイクロバス等ではなく、中型か大型の路線バスと同型になる。また、全員座ることは難しい。

質問 9 : 前回の質疑の中で、祖母懐橋のバス停ではなく学校内にバス停を作ってほしいという要望を出したが、路線バスなので難しいという回答であった。今回、専用に近い形になるのであれば、学校内にバスを乗り入れることができるのではないかと。

⇒回答 9 : 乗降場所については、新たに整備をしていくことも想定する必要があると考えてはいるが、学校内で乗降することは、近隣の道路幅を考えると、大型バスの乗り入れに関する生活道路への影響が大きく難しい。

質問 10 : 現在の祖東中学校へ入る道幅は狭いが、手を加える気がないということか。

⇒回答 10 : どこまで整備可能かも含めて、検討を進めているところである。

質問 11 : 大型バスが通れるように整備すればいいのではないかと。

⇒回答 11 : 道路整備については、用地買収等も関係してくることから、2ヶ年間で直ぐに整備が可能ということは難しい。他方で、長期的な視点で、そうした事も視野に入れて考えていくことも考えている。現段階では、開校時までどのような状況を確保できるのかという視点で検討を進めている。

質問 12 : 工事車両は大型なので、そのルートを使えば、学校内にバスが乗り入れできるのではないかと。

⇒回答 12 : 工事車両のルートは太子町側になるため、道泉地区から利用する通学ルートとしては遠

回りになり、バスの運行ルーとして現実的ではない。

質問 1 3 : 現在何が決められていて、何が決められていないのか、市が何を課題として何を検討しているか、リストのようなものをいただきたい。パルティセと祖母懐橋以外のバス停からの乗降をさせてほしいという意見が出ているが、市としてそのような案はもっているのか。

⇒回答 1 3 : 直ぐに提示することは難しいが、決まっている部分については、できる限り資料を作成し説明をさせていただきたい。

質問 1 4 : パルティセと祖母懐橋以外のバス停での乗降が難しいのであれば、専用マイクロバスを走らせるなどの考え方で進めていただくことはできないのか。

⇒回答 1 4 : パルティセと以外の既存の路線バスのバス停についても、活用の可能性を探っていくが、その際に、安全に集合するというのも大切にしていきたい。

意見 3 : 近所の保護者達と話をしていると、幼稚園バスをイメージしている人がいる。その形は難しいだろうということは伝えているが、保護者の気持ちとしては、せっかく学校の近くに家を買ったのに、学校が遠くなってしまうという気持ちは残っているため、遠くなくてもバス通学ができるということを、協議会の一員として伝えていきたいので、実現に向けて、ちゃんとやってほしい。

質問 1 5 : 本山中学校への進学者が 0 人になったと聞いたが、実際のところはどうか。

⇒回答 1 5 : 平成 30 年度の本山中学校入学者は 0 人になった。深川小学校からの新入生の可能性もあるが、現時点で 0 人の可能性は高い。次の新入生は開校時に 3 年生になるので、受験期に大きく環境が変わることを避けたのではないかと推測している。

質問 1 6 : 以前までの協議会の中で本山中は 0 人になるという話はしていたし、想定できていたことだ。一番心配なのは、本山中で平成 31 年度の新入生も 0 人になれば、平成 31 年度は 3 年生のみで卒業式を行わなければならない。今回の小中一貫校を、あまりに急いで進めていることの弊害が出ている証ではないか。

市の計画としては通過点にすぎないかもしれないが、子どもにとっては一生のことである。また、新しい学校の中身の話が全く伝わってこない。そのことについて、市はどう考えているか説明していただきたい。

⇒回答 1 6 : 今回本山中学校への新入生が 0 人になったことは、重く受け止めている。

今後は、現在本山中学校に通っている生徒が、少人数になることで不利益が生じないよう、教員の配置も含めて、しっかりと対処していくことを保護者の方々にも説明していきたい。

意見 4 : スポーツフェスティバルなど、1 クラスしか残らなかった場合どうするかなどについても、しっかり考えていただきたい。

質問 1 7 : 本山中学校の新入生が来年度は 0 人になる予定であるが、残された子ども達がしっかりと教育を受けられるように、先生方を配置していただけるということでよいか。

⇒回答 1 7 : 現在教員配置については計画中であるが、配慮していく。

意見 5 : 少人数になったとしても、しっかり対応をすることが、今後につながっていくと考える。また、隣接学校選択制度について、平成 31 年度で終わることになるが、それ以降につ

いても希望は出てくると思われるので、制度の存続も念頭におきながら、様々な計画を進めていただきたい。

意見6：跡地利用やモアスクールのことも考えると、通学バスをマイクロバスにすれば、道泉小学校周辺をバスの乗降場所にするということも考えられると思うので、検討の一部に入れていただきたい。

市から別添資料に基づき、モアスクールについて説明された。

- モアスクールは大きく児童クラブと放課後学級に分けられるが、道泉学区で、児童クラブは37人、放課後学級は63人（平成29年4月現在）が利用している。
- 今後、平成32年度からモアスクールをどのように運営していくかについて、モアスクールを活用されている保護者の方々を対象とし、意見交換をしていく予定である。なお、この件については、他地区も同様に行っていく。
- いずれにしても、委託運営をしていく事業なので、これまでどおりの道泉小学校跡地と、小中一貫校の両方でという話はできない。どちらで行うことが地域のニーズに沿っていくことができるかについての意見交換をしていきながら決めていきたい。

（3）今後の予定について

次回地区協議会は2月8日（木）午後7時から行わせていただく。

【内容】通学路の安全対策の結果報告

カリキュラムの検討状況 など

■第6回 道泉地区協議会

日時：平成30年2月8日（木）午後7時から

場所：道泉地域交流センター

備考